



国立競技場と伐採された神宮外苑の樹木(2015年1月17日, 浜野安宏撮影)

【緊急声明】

国立競技場の解体と神宮外苑の樹木伐採に抗議します

われら力及ばずして、長年愛され続けた国立競技場の解体を迎えた。

この間、景観の維持と競技場の改修を提案する36,000人余の当会賛同者の声、多くの建築家や文化人の声、意識調査でも約半数は「新国立競技場はそもそもいらない」*という広範な市民の声を無視し、日本スポーツ振興センター(JSC)は神宮外苑の樹木を大量に伐採し、巨大な競技場の建設に粛々と暴走している。(*YAHOOニュース. 62,751票回答. 2015年1月)

森喜朗東京オリンピック・パラリンピック組織委員会会長、下村博文文部科学大臣、都有地を供出した舛添要一東京都知事、JSCの河野一郎理事長、鬼澤佳弘理事、山崎雅男本部長らは数多くの問題があることを知りながら、計画を根本的に再考しようとはしなかった。これらの人々が、新国立競技場は都心のホワイト・エレファント(無用の長物)になることはない、将来世代に重荷を背負わせることはない、大丈夫だと言うからには将来にわたって責任を取るべきだと考える。またその根本には歴史や自然、景観に配慮しない新国立競技場国際デザイン・コンクールの募集要項を承認した有識者会議委員(次頁参照)、とりわけ国のスポーツ施設である競技場でコンサートなどをするために「屋根はマスト(必須条件)」と主張して、結果的に建設費と維持費の高騰を招いた都倉俊一委員、さらに国際的にアピールできるとして技術的にもコスト的にも困

難であることを知りながら、募集要項に違反したザハ・ハデイド案を選んだ安藤忠雄委員長らコンクールの審査委員も責任は重い。政治家と官僚が責任を取ることのないこの国で、あえて銘記しておく。

私たちは、新国立競技場を建物単体の問題として捉えてきたのではない。市民の共有財産である都市の風景をいかに守り育て、次の世代へ手わたしていくのか、そのためにどういう手続きと議論と知恵の積み重ねが必要かということは何度も訴えてきた。それはとりもなおさず、この国の民主主義が成り立っているのかという根本的な問題さえ突きつけている。

今、目の前では、レガシー(遺産)の活用とはほど遠い破壊行為が進んでいる。私たちは100年近く守られてきた神宮外苑の森と、戦後復興の象徴である国立競技場をわずか50年で取り壊し、未来の人たちに手わたすことができなかつた悔しさを決して忘れない。そして、この活動を通じて手にした知見を、次に生かしていくことを誓う。

国立競技場将来構想有識者会議 委員 (敬称略、2014年)

委員長/佐藤禎一 元日本国政府ユネスコ代表部特命全権大使

副委員長/安西祐一郎 独立行政法人日本学術振興会理事長

建築WG座長/安藤忠雄 建築家

文化WG座長/都倉俊一 作曲家・一般社団法人日本音楽著作権協会会長

スポーツWG座長/小倉純二 公益財団法人日本サッカー協会名誉会長

石原慎太郎→猪瀬直樹→舛添要一 東京都知事

遠藤利明 スポーツ議員連盟幹事長・2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会理事・衆議院議員

河野洋平→横川浩 公益財団法人日本陸上競技連盟会長

鈴木寛 文部科学省参与・元参議院議員

鈴木秀典 公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構会長

竹田恆和 公益財団法人日本オリンピック委員会会長

張富士夫 公益財団法人日本体育協会会長

鳥原光憲 公益社団法人日本障害者スポーツ協会会長

森喜朗 公益財団法人日本ラグビー協会会長・東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会委員長・元内閣総理大臣

笠浩史 2020年東京オリンピック・パラリンピック大会推進議員連盟幹事長代理・衆議院議員

2015年3月5日

神宮外苑と国立競技場を未来へ手わたす会

メール info@2020-tokyo.sakura.ne.jp

ホームページ <http://2020-tokyo.sakura.ne.jp>

共同代表

大橋智子(大橋智子建築事務所)

上村千寿子(景観と住環境を考える全国ネットワーク)

酒井美和子(デザイナー・まちまち net)

清水伸子(一般社団法人グローバルコーディネーター)

多田君枝(『コンフォルト』編集長)

多見貞子(たてももの応援団)

日置圭子(地域文化企画コーディネーター・粋まち代表)

森桜(アートコーディネーター・森オフィス代表)

森まゆみ(作家・谷根千工房)

山本玲子(全国町並み保存連盟)

吉見千晶(住宅遺産トラスト)